

すべての子どもを支える図書館へ

ー長崎市立図書館の小児医療に関わる取り組みと今後の課題ー

黒岩綾香
長崎市立図書館

【はじめに】

長崎市立図書館では、平成25年度から「長崎県小児等在宅医療連携拠点事業（現：長崎県医療的ケアが必要な在宅小児等への支援事業）」との連携を中心に、小児医療に関わる取り組みを行っている。事業との連携は、23年度から同館で実施しているがん情報サービス（現：医療健康情報サービス）において、図書館と専門機関が連携することで、双方の特色が活かされた事業を展開できるという成果を得ていたことから協力を依頼され、スタートした。現在までの取り組みと、今後の課題について述べたい。

【これまでの主な取り組み】

- 医療的ケアが必要な在宅小児等への支援事業講演会＋交流会
「地域で支える みんなで支える 在宅医療を受けるこどもたちと共に」25年度実施 参加者 49名／「図書館で学ぼう！小児在宅 ～今を知り、未来へつなぐ～」26年度実施 参加者 93名／「障がいのある子どものコミュニケーション能力を伸ばすために～支援機器の活用～」27年度実施 参加者 75名
- 医療的ケアが必要な在宅小児等への支援事業上映会＋交流会
「うまれる ～命と家族、絆の物語～」28年度実施 参加者 83名
- がんの子どもを守る会九州西支部との連携
「いつもこどものかたわらに 細谷亮太講演会」26年度実施 参加者 102名／「風のかたちー小児がんの仲間たちの10年ー」26年度実施 参加者 89名／「ひとりじゃないよーびょうきの子どもときょうだいへの支援を考えるー」27年度実施 参加者 40名
- その他
「小児がん」「小児在宅医療」をテーマにしたブックリストの作成、外部研修への参加等

【成果と課題】

当初は、なぜ医療機関ではなく図書館で行うのか、という疑問が内外からあった。「重い障がいがある子どもやその親へ、どう声をかけてよいか迷う」「難しそう」と不安になる職員もいた。しかし、講演会等のアンケートからは「図書館だから参加できた」（一般）、「図書館の見方が変わった」（特別支援学校教諭）、「図書館を利用しにくく感じていたが来てもいいんだと思えた」（患児の家族）といった家族や関係者の意識の変化が見え、図書館で取り組む成果を感じられた。子どもやその家族にとって図書館が、いつでも自由に楽しみ、学べる場であるように、誰もが「当たり前」に利用できる図書館を目指し、この取り組みの継続と今後の発展に尽くしたい。